

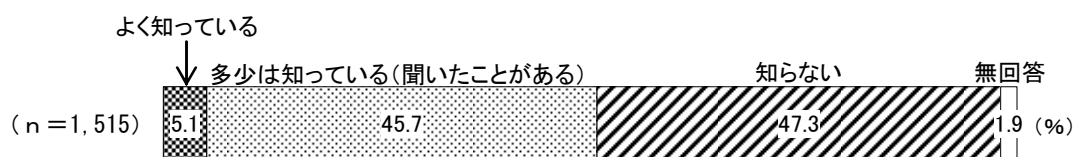
## 4 【社会全体での暴力団排除の推進について】

### (1) 「千葉県暴力団排除条例」の認知度

◇「多少は知っている（聞いたことがある）」は4割台半ば

問21 千葉県では、社会全体として、暴力団が悪質な存在であるという認識の下に、暴力団を恐れないこと、暴力団に対して資金を提供しないこと及び暴力団を利用しないことを基本に暴力団の排除を推進することを定めた千葉県暴力団排除条例が制定されていますが、あなたはこの千葉県暴力団排除条例が制定されていることを知っていますか。（○は1つ）

<図表21-1> 「千葉県暴力団排除条例」の認知度



「千葉県暴力団排除条例」が制定されていることを知っているか聞いたところ、「よく知っている」(5.1%)は1割に満たないが、「多少は知っている（聞いたことがある）」(45.7%)は4割台半ばとなっている。「知らない」(47.3%)は約5割となっている。(図表21-1)

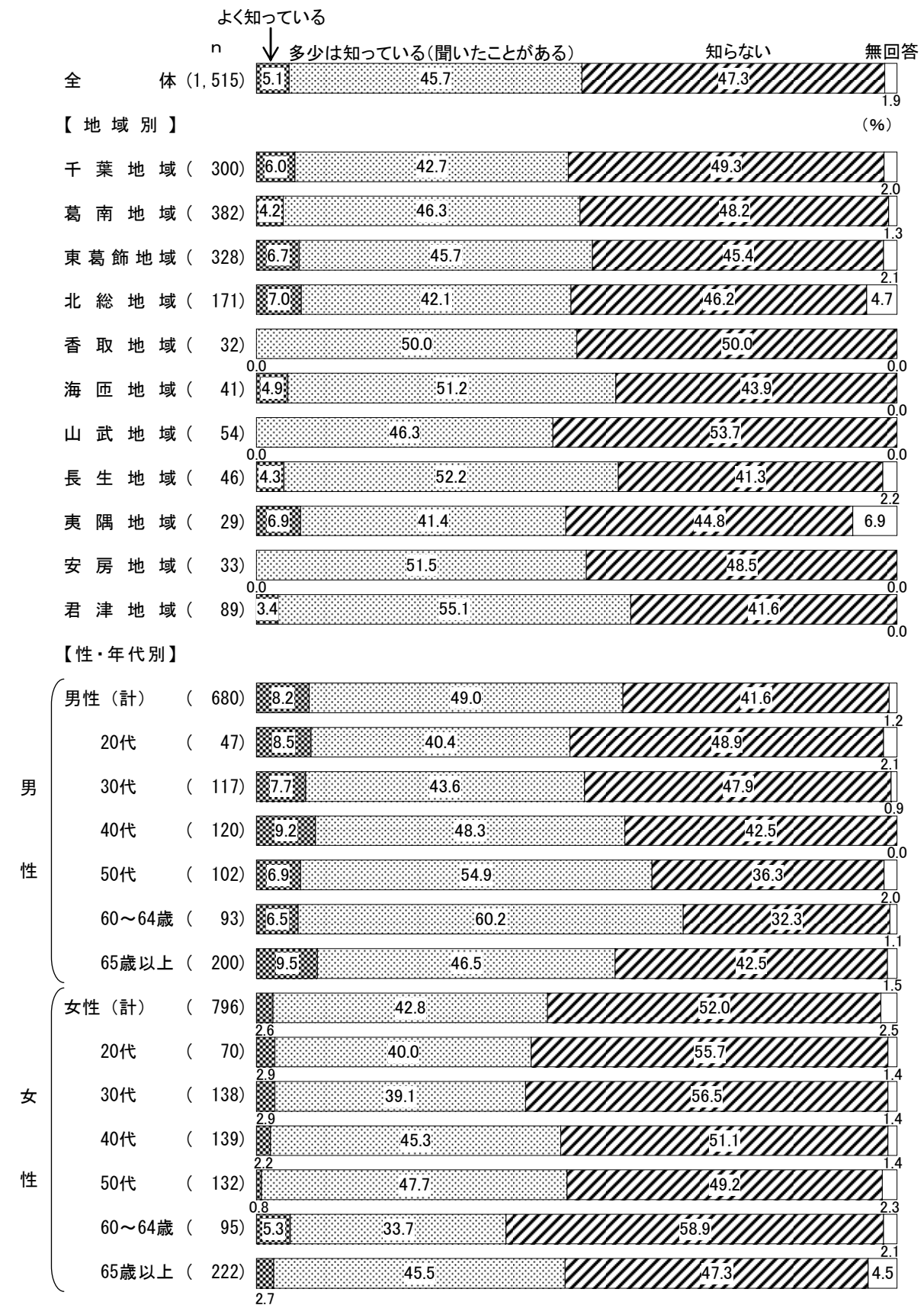
#### 【地域別】

地域別にみると、「多少は知っている（聞いたことがある）」は“君津地域”（55.1%）が5割台半ばと多くなっている。「知らない」は“山武地域”（53.7%）が5割台半ばとなっている。(図表21-2)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「よく知っている」は男性（8.2%）の方が女性（2.6%）より5.6ポイント高くなっている。「多少は知っている（聞いたことがある）」は男性60～64歳（60.2%）が6割と多くなっている。(図表21-2)

<図表21-2> 「千葉県暴力団排除条例」の認知度／地域別、性・年代別

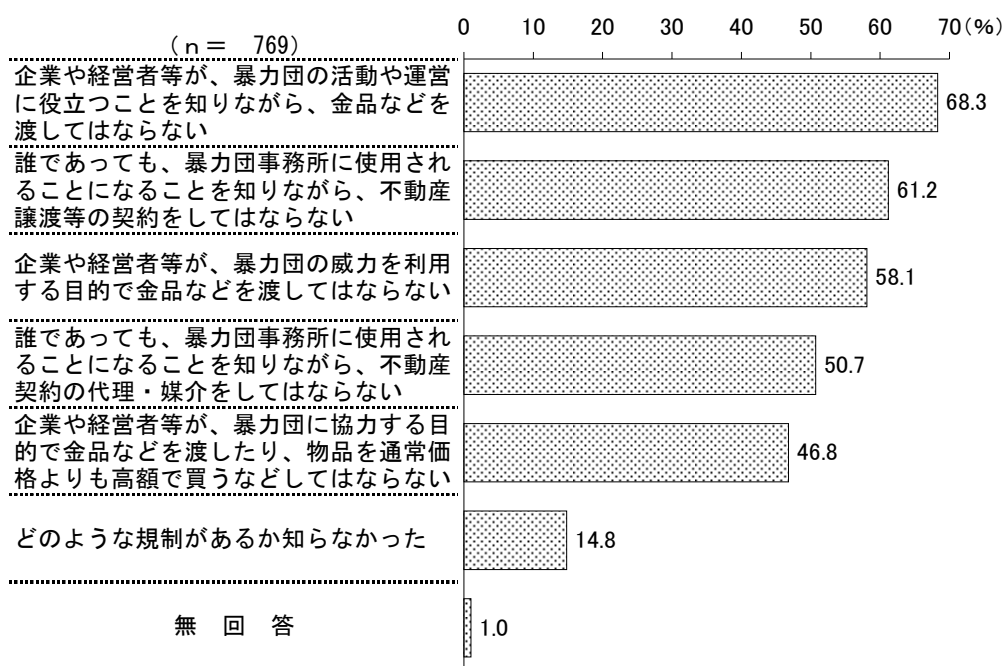


## (1-1) 「千葉県暴力団排除条例」の規制等の認知度

◇「企業や経営者等が、暴力団の活動や運営に役立つことを知りながら、金品などを渡してはならない」は約7割

(問21で「よく知っている」「多少は知っている(聞いたことがある)」とお答えの方に)  
問21-1 千葉県暴力団排除条例で定められている規制等として、どのようなものがあるか知っていますか。(〇はいくつでも)

<図表21-1-1> 「千葉県暴力団排除条例」の規制等の認知度



「千葉県暴力団排除条例」が制定されていることを「よく知っている」または「多少は知っている(聞いたことがある)」と答えた人(769人)に、条例で定められている規制等の内容で知っているものを聞いたところ、「企業や経営者等が、暴力団の活動や運営に役立つことを知りながら、金品などを渡してはならない」(68.3%)が約7割で最も多くなっており、以下、「誰であっても、暴力団事務所に使用されることになることを知りながら、不動産譲渡等の契約をしてはならない」(61.2%)、「企業や経営者等が、暴力団の威力を利用する目的で金品などを渡してはならない」(58.1%)などが続く。

(図表21-1-1)

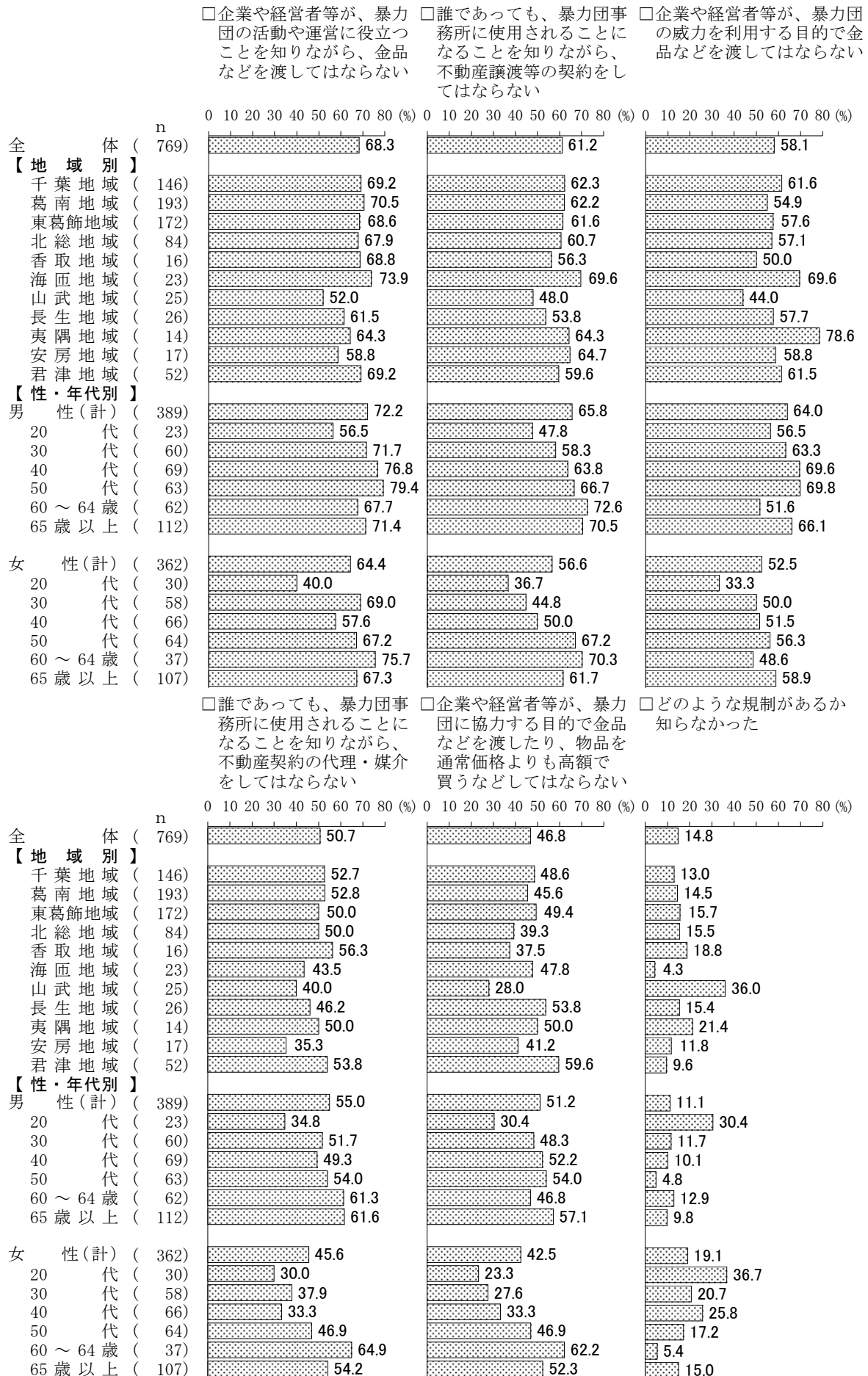
### 【地域別】

地域別にみると、「誰であっても、暴力団事務所に使用されることになることを知りながら、不動産譲渡等の契約をしてはならない」は“海匝地域”(69.6%)が約7割となっている。「企業や経営者等が、暴力団の威力を利用する目的で金品などを渡してはならない」は“夷隅地域”(78.6%)が約8割となっている。「どのような規制があるか知らなかった」は“山武地域”(36.0%)が3割台半ばとなっている。(図表21-1-2)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、5つの規制については、全体では男性の方が女性より認知度が高いが、50代、60～64歳の年代で、一部の項目で女性の方が男性より認知度が高くなっている。「どのような規制があるか知らなかった」は男女とも20代(男性30.4%、女性36.7%)が3割台となっている。(図表21-1-2)

<図表21-1-2> 「千葉県暴力団排除条例」の規制等の認知度／地域別、性・年代別

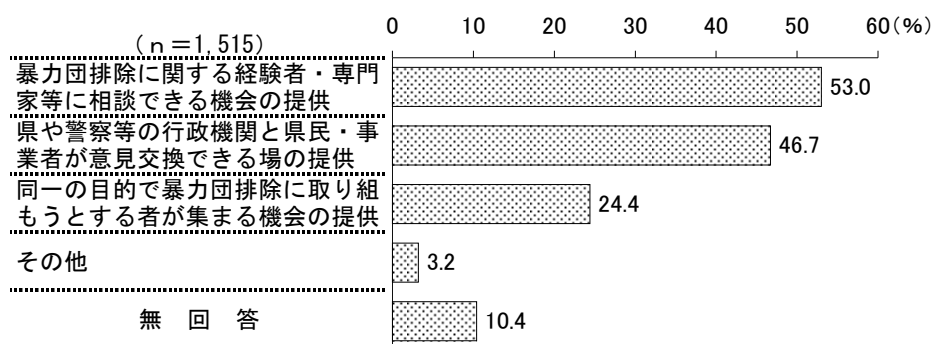


## (2) 暴力団排除の取り組みに参加する上で必要な支援

◇「暴力団排除に関する経験者・専門家等に相談できる機会の提供」が5割台半ば

問22 県（警察を含む。）では、千葉県暴力団排除条例に基づき、暴力団排除に関する情報の提供、暴力団排除に取り組んだ人への保護措置、広報活動等の支援を講ずることとしていますが、このほかに、あなたが暴力団排除の取組に参加する上でどのような支援が必要であると考えますか。（〇はいくつでも）

<図表22-1> 暴力団排除の取り組みに参加する上で必要な支援



暴力団排除の取り組みに参加する上でどのような支援が必要か聞いたところ、「暴力団排除に関する経験者・専門家等に相談できる機会の提供」（53.0%）が5割台半ばで最も多くなっており、以下、「県や警察等の行政機関と県民・事業者が意見交換できる場の提供」（46.7%）、「同一の目的で暴力団排除に取り組もうとする者が集まる機会の提供」（24.4%）などが続く。（図表22-1）

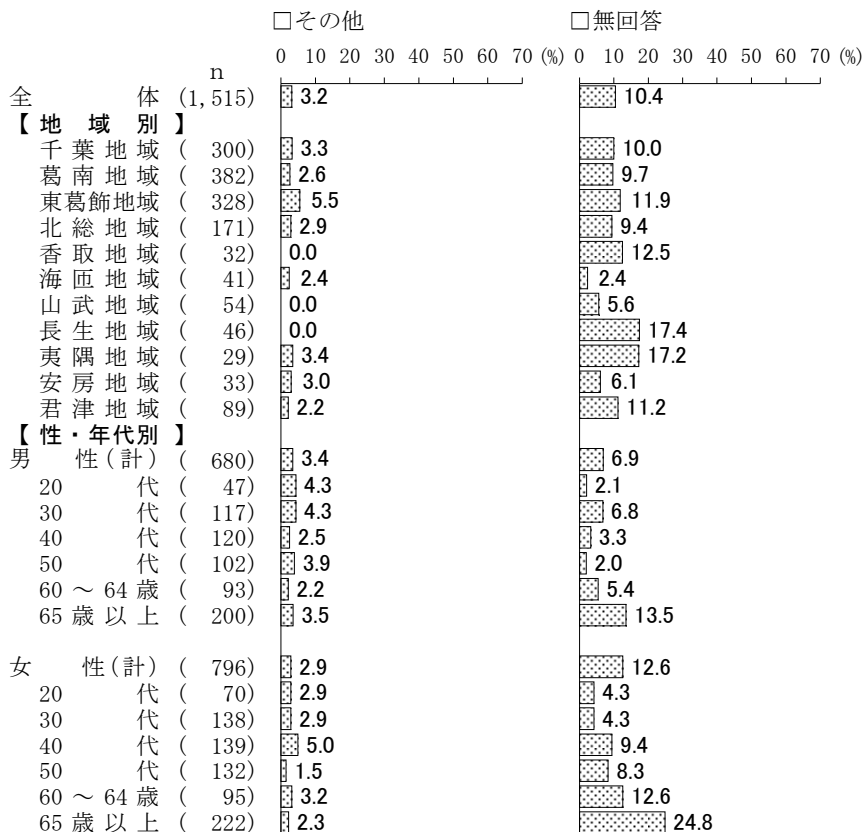
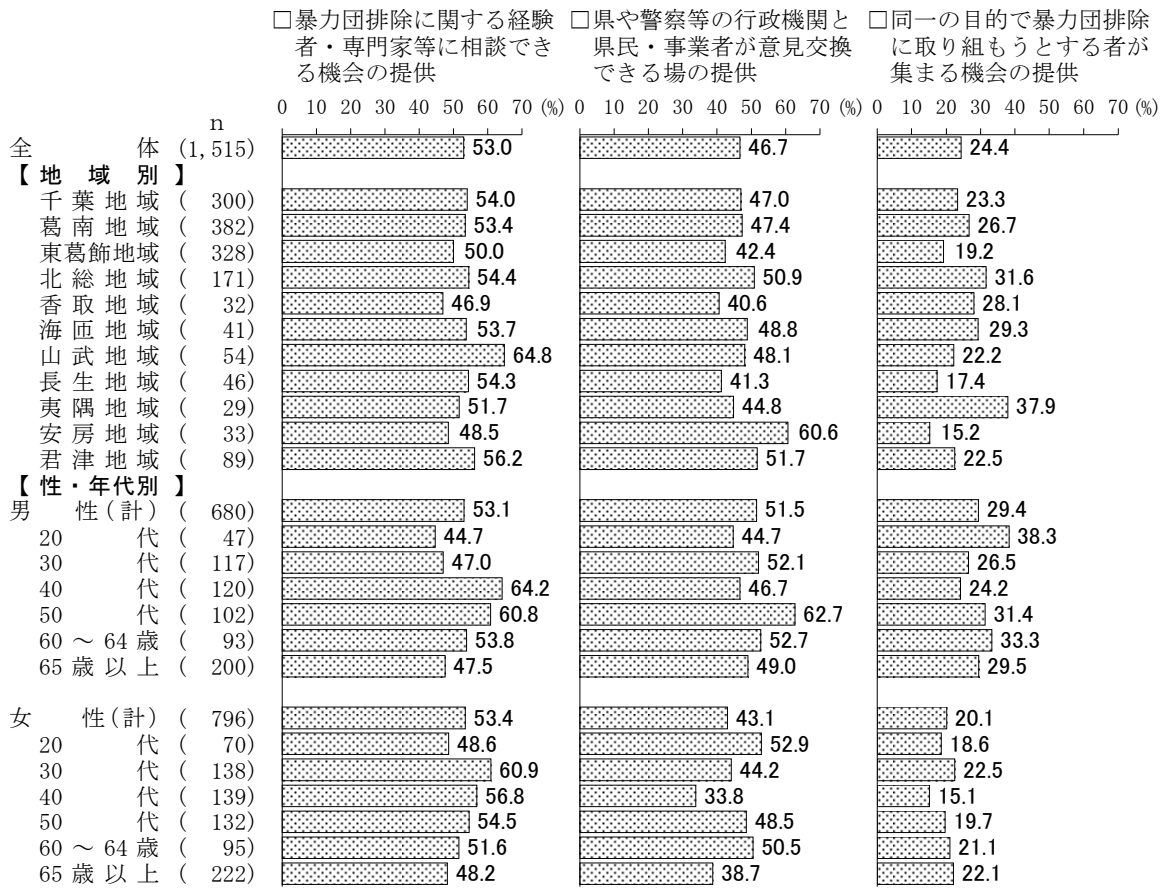
### 【地域別】

地域別にみると、「暴力団排除に関する経験者・専門家等に相談できる機会の提供」は“山武地域”（64.8%）が6割台半ばとなっている。「県や警察等の行政機関と県民・事業者が意見交換できる場の提供」は“安房地域”（60.6%）が6割、「同一の目的で暴力団排除に取り組もうとする者が集まる機会の提供」は“夷隅地域”（37.9%）が約4割となっている。（図表22-2）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「暴力団排除に関する経験者・専門家等に相談できる機会の提供」は男性40代（64.2%）が6割台半ばと最も割合が多くなっている。「県や警察等の行政機関と県民・事業者が意見交換できる場の提供」は男性50代（62.7%）が6割を超えており、「同一の目的で暴力団排除に取り組もうとする者が集まる機会の提供」は男性20代（38.3%）が約4割となっている。（図表22-2）

<図表22-2> 暴力団排除の取り組みに参加する上で必要な支援／地域別、性・年代別

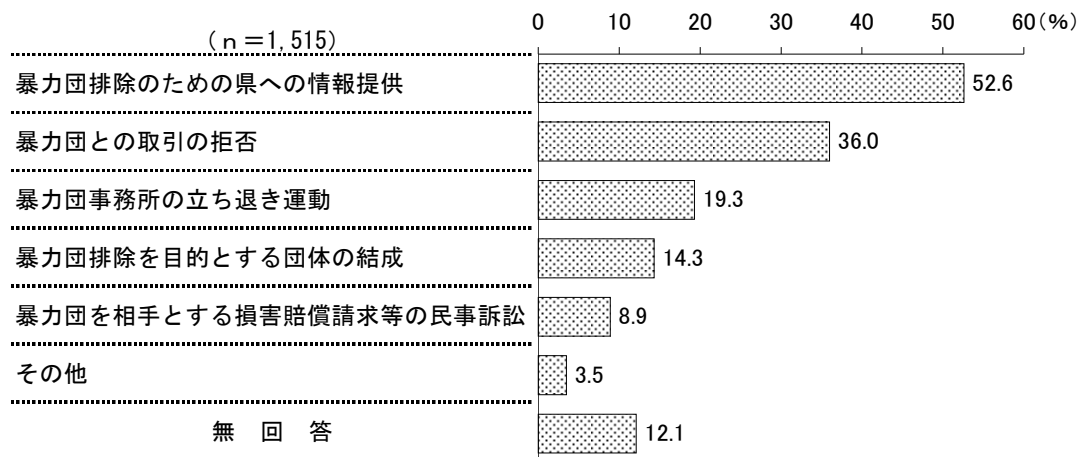


### (3) 暴力団排除の取り組みで参加したいもの

◇「暴力団排除のための県への情報提供」が5割を超える

問23 暴力団を排除するためには、警察による取締りの他、住民運動や、事業活動において暴力団との関係遮断を図ることが必要とされていますが、あなたは、どのような取組であれば参加しますか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

<図表23-1> 暴力団排除の取り組みで参加したいもの



暴力団を排除するためにどのような取り組みであれば参加するか聞いたところ、「暴力団排除のための県への情報提供」(52.6%)が5割を超えて最も多くなっており、以下、「暴力団との取引の拒否」(36.0%)、「暴力団事務所の立ち退き運動」(19.3%)などが続く。(図表23-1)

#### 【地域別】

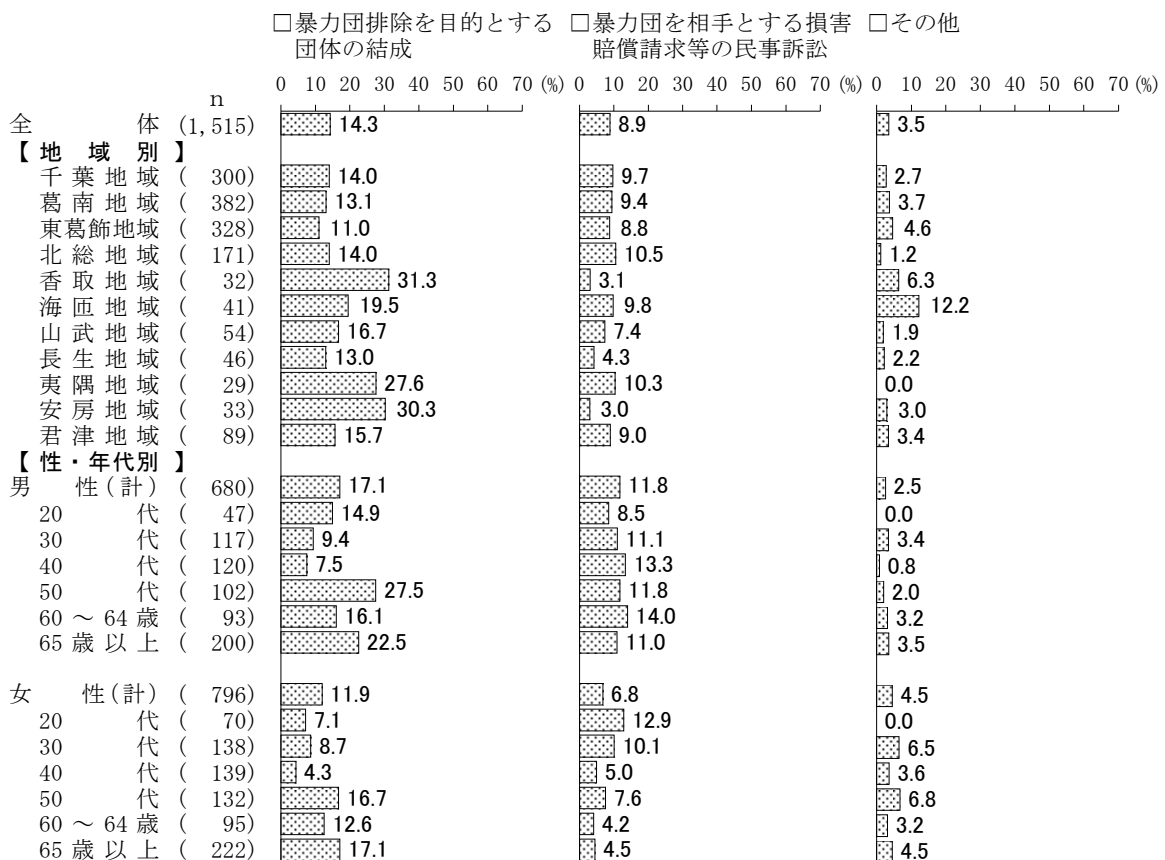
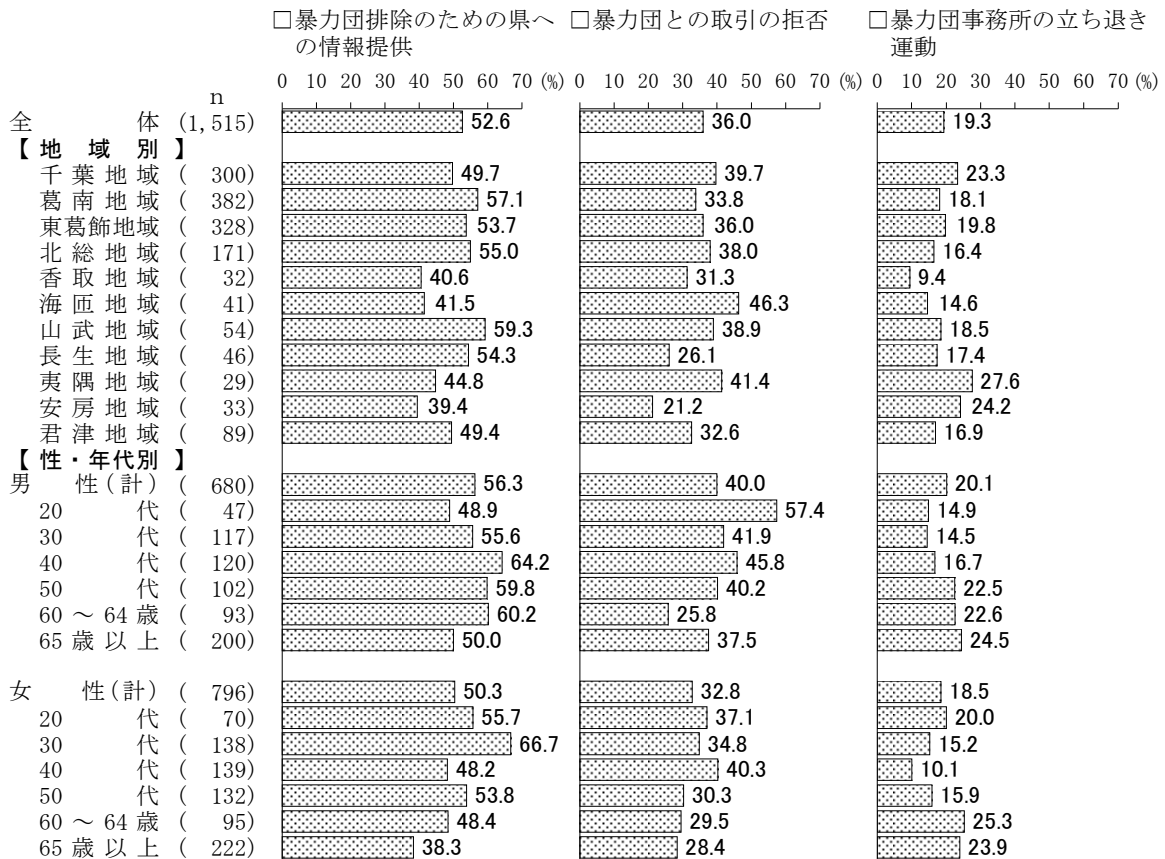
地域別にみると、「暴力団排除のための県への情報提供」は“山武地域”(59.3%)と“葛南地域”(57.1%)が約6割となっている。「暴力団との取引の拒否」は“海匝地域”(46.3%)が4割台半ばとなっており、「暴力団排除を目的とする団体の結成」は“香取地域”(31.3%)と“安房地域”(30.3%)が3割台となっている。(図表23-2)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「暴力団排除のための県への情報提供」は男性40代(64.2%)と女性30代(66.7%)が6割台半ばとなっている。「暴力団との取引の拒否」は男性20代(57.4%)が約6割となっており、「暴力団排除を目的とする団体の結成」は男性50代(27.5%)が約3割となっている。

(図表23-2)

<図表23-2>暴力団排除の取り組みで参加したいもの／地域別、性・年代別





このほかに、「社会全体での暴力団排除の推進について」やここまでの質問（問21～問23）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、111人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「社会全体での暴力団排除の推進について」の自由回答（抜粋）

- 暴力団がどこでどのような活動をしているかわからないので、住民に分かりやすく情報提供してほしい。（女性・50代・安房地域）
- 暴力団と言っても普段私達が生活しているうえで暴力団と直接会ったりすることはほとんどないので、暴力団排除といってもどんな活動をするのか概要が分かりにくい。  
(女性・50代・北総地域)
- 個人的には暴力団排除の推進にはかかわりたくないと感じる。後でうらみをかったりしそうなので。（女性・40代・君津地域）
- 団体ではできるかもしれないが、個人で暴力団との事になると、警察がどこまで守ってくれるのか具体的に知りたい。（男性・65歳以上・長生地域）
- 暴力団との取引の拒否、その場では怖くてできないと思う。市民にそのようなことが起きないように、警察に頑張ってもらいたい。（女性・30代・葛南地域）
- 暴力団の事務所をいくつか知っているのだが本当に排除しようとしているのか。地元住民は暴力団だと思っているけど、県と市民では暴力団の定義が違うのか。（男性・20代・安房地域）
- 地域性かだれがどこでつながっているかわからないため安心して相談しにくいのではないかと。できれば住んでいる地域外にある安心して相談できる場を知らせる方が良い。  
(男性・40代・海匝地域)
- 「対処の仕方がわからない。」「こわい」等がある。暴力団の活動方法もわからないので、その基本から教えて頂けるような集会があればよいです。（男性・50代・東葛飾地域）
- 暴力団員も人間であり衣食住がなければ生きて行けません。自己責任に基づき他人と自分のためになる新たな生き方をできるようサポートできる体制を作ることを排除と共に行なわなければ、脱団した人たちはどうやって生活していけば良いでしょうか。組を辞めれば心の安定を得られる生活ができる様な流れを考える事が必要だと思います。（女性・40代・千葉地域）
- 小さい頃から話し合いが大事、まじめに働くことが大事だということを社会全体で教育できる環境作りが大切ではないか。（女性・50代・山武地域）